



南の躍動

第 5 号



奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進
 ～ 人権教育を全ての教育の根幹に ～

大島教育事務所 令和5年3月20日

児童生徒の夢の実現に向けて ～令和4年度 鹿児島学習定着度調査から～

令和4年度の鹿児島学習定着度調査の大島地区の結果(数値は3月20日現在)は、右の表のとおりです。

小学5年の全教科, 中学1年の数学, 理科, 英語が県平均を上回りました。また, 令和3年度の県平均との差を比較してみると, 小学5年は全ての教科, 中学1年は国語, 理科, 英語で前年度より向上し, 中学1年の国語は, 県平均との差が狭まりました。

先生方の日々の授業改善や演習問題の活用等の地道で着実な取組が成果につながったと感謝しています。

しかし, 依然として課題の残されている学年, 教科もあります。今後更に, 自校の結果分析を基にした指導方法の改善や演習問題への取組を計画的に継続していくことが必要です。

学年末のまとめの時期です。学ぶ意欲を高めるとともに, 児童生徒一人一人に該当学年で身に付けさせるべき学力をしっかりと定着させ, 次年度につなげてください。

児童生徒の夢の実現に向けて, 生きて働く知識・技能の習得や, これからの社会を生きていくことができる資質・能力を最大限伸ばしていくための教育活動の充実をお願いします。

教科	問題別	小学5年生		中学1年生		中学2年生	
		大島	県平均との比較	大島	県平均との比較	大島	県平均との比較
国語	令和3年度	70.8	-1.5	71.9	-1.7	77.3	0.0
	令和4年度	72.3	+1.4	70.3	-0.1	68.2	-2.8
	前年度の県平均比		+2.9		+1.6		-2.8
社会	令和3年度	80.3	+0.4	72.9	+2.6	67.7	+0.9
	令和4年度	80.3	+2.8	68.3	-0.1	54.6	-0.6
	前年度の県平均比		+2.4		-2.7		-1.5
算数・ 数学	令和3年度	68.3	-2.3	67.6	+1.6	69.3	-0.9
	令和4年度	69.6	+2.2	71.1	+0.2	71.0	-1.5
	前年度の県平均比		+4.5		-1.4		-0.6
理科	令和3年度	71.1	-2.0	69.1	-0.3	68.2	-0.4
	令和4年度	72.6	+0.9	63.3	+0.1	60.6	-1.9
	前年度の県平均比		+2.9		+0.4		-1.5
英語	令和3年度			67.4	-4.1	58.8	-1.6
	令和4年度			76.0	+0.3	65.4	-2.4
	前年度の県平均比				+4.4		-0.8

学校間連携の充実のために～切れ目ない支援の充実を目指して～

特別な支援が必要な子供にとって, 特に就学や進学時の移行期は, 心身共に負担が大きくなるのが考えられます。新たな学びの場でのスムーズなスタートを切るためには, それまでの支援を継続することが大切で, 学校間における連携が必要となります。

引継ぎにおいては, 「個別の教育支援計画」, 「個別の指導計画」, 「移行支援シート」等を活用しながら, 確実に引き継ぐことが大切です。引継ぎを受けた全ての学校は, 教職員の共通理解を確実にを行い, 校内支援委員会等で支援内容・方法等について検討を行うとともに, 新年度の「個別の教育支援計画」, 「個別の指導計画」を作成し, 支援及び指導の充実を図ってください。県教育委員会では, 下記のような学校間連携に係るリーフレットをこれまでも作成しています。御活用ください。

- 児童生徒の多様な特性に応じた合理的配慮研究事業リーフレット「学校間連携の充実のために～切れ目ない支援の充実を目指して～」 (鹿児島県教育委員会 令和3年3月)
- 「特別な支援が必要な児童生徒の引継ぎの充実に向けて～切れ目ない支援を実現するために～」 (鹿児島県教育委員会 平成30年3月)
- 「学校間連携ハンドブック」支援の必要な幼児児童生徒に対する切れ目ない支援の充実を目指して (鹿児島県教育委員会 令和3年3月)

「学校間連携ハンドブック」には, 「校(園)内支援体制のモデル」, 「実態把握の方法」, 「学校間連携のモデル」, 「学校間連携Q&A」, 「引継ぎのためのツール」, 「関係機関との連携」, 「保護者への理解啓発の取組例」が掲載されています。

令和4年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例から分かる一人一台端末の利活用

令和4年度全国学力・学習状況調査の中学校の国語の第1問は、「国語の時間に、最近気になったことについてスピーチをする」という題材の問題でした。本問では、自分のスピーチを動画に記録して友達から助言をもらう場面が設定されており、聞き手を引き付けるような表現になるようにスピーチの内容を直したり言葉の抑揚や強弱、間の取り方などの話し方について考えたりすることに加え、スピーチについて聞き手がどのように受け止めているかについて考えることを求めています。このような問題に対応するために、今後の指導方法についてどのように改善すればよいか各学校で分析がなされたと思います。そこで参考となるのが、令和4年度全国学力・学習状況調査授業アイデア例の記載されている「学習指導に当たって」の項目です。中学校の国語第一問目では次のように示されています。

「自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫をさせる」学習活動では、ペアやグループでそれぞれのスピーチを比べたり、他学年のスピーチの動画を視聴したりして、分かりやすく伝えるための具体的な工夫について考えるように指導する。

【音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話す～一人一台端末の活用～】

- 一人一台端末を活用してスピーチの様子を動画で記録し、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確かめたりする学習活動
- ※ 聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら話す内容や話し方を検討したり、なぜそのように表現を工夫したのか、その意図を明確にして工夫したことの効果を確かめたりする場面を設定する。

このように、一人一台端末の活用については、学び方の多様性を経験させることも重要です。「全国学力・学習状況調査 授業アイデア例」をぜひ一読し、指導方法の改善に生かしてください。

研究成果の還元を

指定区分	学校名	研究テーマ
県	宇検村立阿室小中学校	持続可能な社会づくりに向けて、自分の考えをもって、行動し、表現・発信する児童生徒の育成[環境教育]
	天城町立北中学校	確かな学力の定着を図り、主体的に学習に取り組む生徒の育成[キャリア教育]
	大和村立名音小学校	「生きる力」を育む読書活動の充実を目指して[読書指導]
地区	奄美市立赤木名中学校	自ら考え、共に学び合う生徒の育成[指導方法改善]
	喜界町立喜界小・早町小・喜界中学校	ふるさとと自らの未来を切り拓くことのできる児童生徒の育成[キャリア教育]
	徳之島町立花徳小学校	プログラミング的思考を育成する学習指導の創造[プログラミング教育]
	伊仙町立系木名小学校	児童が主体的に考え、よりよい学びを共に創る複式学習[へき地・複式教育]
	和泊町立和泊小学校	自ら考え、伝え合う子供を育てる指導の在り方[指導方法改善]
	和泊町立大城小学校	自ら学び、共に高め、成長していく児童の育成[へき地・複式教育]

奄美の文化財等 ～大道那太遺物・遺跡（高倉）～

大道那太（うぶどうなた）は、一説には琉球国王にも仕えたと言われる与論島の英雄として伝わる人物です。現在、大道那太の子孫の方が住まわれている屋敷や屋敷地内の6本脚の高倉は、当時のものと伝わっています。特に高倉は、島内に現存する数少ない戦前から残存する高倉で、現在も子孫の方や地域の方によって吹き替えを行いながら、維持管理されています。高倉や屋敷という有形文化財だけでなく、現在では伝承者が全国的に数少なくなってきた伝統的な茅葺の技術が伝承されていることは、併せて地域の大切な文化財だといえます。



【与論町教育委員会生涯学習課提供資料】